

一人一人の自立と社会参加をめざす一貫性・継続性のある指導  
～プロジェクトチームの実践をとおして（2年次）～

今年度の  
方向性

- ・ 1年次(平成26年度)の研究で解決すべき課題となったものを2年間(平成27, 28年度)かけて研究する。
- ・ 解決すべき課題をテーマ研究の時間を利用し, 解決(改善)する。→実践的研究
- ・ 学部を解いたチームを編成し, 研究することで継続性のある指導をめざす。
- ・ これまでの取組(付せん紙を用いた授業参観やワークショップ型の授業検討会)を続け授業力向上を図る。

研究テーマ  
の意味

「一人一人の自立と社会参加」とは

個別の教育的ニーズを基に身に付けてきた生きる力を生かしながら, 地域社会における体験的な学習や主体的に行動・判断することを通して, 必要な支援を受けながら積極的に働いたり, 楽しい生活を送ったりすること

「一貫性のある指導」とは

心理検査(知能検査), チェックリスト, 行動観察, 保護者とのミーティング(家庭訪問)を基にしたデータをケース会にて複数の職員で分析(解釈)し, 得られた個別の教育的ニーズに向かって児童生徒に関係する者が手立てやかかわり方を共有して指導すること

「継続性のある指導」とは

個別の教育支援計画, 個別の指導計画やその他の引継資料を活用し, 学年や学部が変わっても手立てやかかわり方を受け継ぎながら, 新たな(次のステップの)個別の教育的ニーズに向かって指導していくこと。

仮説

個別の教育的ニーズのある児童生徒に対する, 一貫性・継続性のある指導において, 次の4点についてプロジェクトチームを編成し, 課題解決や授業力向上を行うことで一人一人の自立と社会参加へつながら得よう。

- A チェックリスト(本校作成)の判断基準の明確化とさらなる活用方法
- B 年間指導計画(生単, 作業)における継続性(小→中→高)の見直しと改善
- C 段階で習得させたい力の明確化(キャリア教育)
- D 他学部の意見(分析)を交えたアセスメントによる授業力向上

検証方法

縦割りによるプロジェクトチームの編成(関連校務分掌, 希望調査による)

- ・ プロジェクトチームでの取組(テーマ研究8回の時間を使い, 課題解決や授業力向上)
- ・ 中間報告会, 実践報告会の実施(チームメンバー以外からの改善点・意見をチーム研究に生かす)

検証内容

チェックリスト

- ・ 判断基準の客観性(具体化)
- ・ チェックリストの手引き(活用方法)作成
- ・ チェックリストの様式検討

年間指導計画

- ・ 年間指導計画の継続性の見直しと改善(小→中→高の継続性)
- ・ 単元, 題材一覧表の作成
- ・ 中等教育の充実

キャリア教育

- ・ 社会参加と自立に必要な能力の洗い出し(伝えるキーワード)
- ・ 段階で習得させたい力の明確化と学部目標との関連性と継続性

アセスメント

- ・ H26年度研究の深化
- ・ 他学部の職員を交えた分析(解釈)
- ・ 研究授業, 授業検討会をとおした授業力向上

成果

チェックリスト

- 全職員が同じ視点で評価できる評価基準を明確にした改訂版の作成
- 検査項目と説明書を一体化した様式の作成
- 参考にした文献を明記
- 年間指導計画との関連

年間指導計画

- 生単:年間指導計画(小→中→高)の単元一覧表の作成及び目標の系統性を整理
- 作業:中, 高の各作業班共通の単元一覧の作成(目標, 展開のつながり)

キャリア教育

- 学部目標から学部のキーワード設定
- キャリア教育における能力の観点を基に合わせた指導の目標整理
- 授業改善シートを活用した授業実践

アセスメント

- 文献を基にした発達段階表の作成(4グループ)
- 作成した発達段階表を活用し, 対象生徒の分析を(解釈)実施
- 県音研や学校訪問での研究授業, 授業検討会の実施と授業改善